

2024 年度
事業報告・会計報告



2024年度 事業報告書

特定非営利活動法人 3keys

1 事業の成果

子どもたちへセーフティーネット等を提供する事業（通称：子ども事業① セーフティーネット作り）

1. 10代向け支援サービス検索・相談サイト Mex（ミークス）

2024年度は、住んでいるエリアによって利用できる支援機関の偏りを減らせるよう、全都道府県に20以上の支援先または居場所情報を掲載することを目指し、達成することができました。最も少ない群馬県、新潟県、福井県、長野県、和歌山県、香川県でも25件の相談先もしくは居場所が表示されるようになりました。一方で、掲載できる支援機関の多くは、全国一律の相談窓口が多く、地域密着の支援で10代が利用できるものが非常に少ない現状も見えてきました。

また2024年度は、Mexに寄せられた子どもたちの声なき声を分析し、行政や社会に届けていくために、北海道大学大学院教育学研究院教育学院の発達心理学的研究室と共同研究を行いました。12月1日には香川県で開催された「日本子ども虐待防止学会」、1月にはこども家庭庁の「こどもの悩みを受け止める場に関するプロジェクトチーム」で、研究の途中経過を発表しました。

2. ユースセンター「3（さん）」

ユースセンター「3」は2024年度で4年目となり、年間298日間オープンすることができました。定休日は、12月までは水曜日のみでしたが、1月からは人員不足・資金不足等を踏まえ日曜日にも休みとなり、水曜日・日曜日（1月～）・12月31日・1月1日が休みとなりました。

年間約900名の子どもたちがセンターを利用し、約8割が食事を利用しており、食事支援のニーズの高さを感じています。一方で、水道光熱費や、食材費の高騰、採用費用の大幅な高騰や、エッセンシャルワーカーの恒常的な人手不足等により、センターを休みなく運営することや、十分なトレーニングをして安心・安全に運営することの難しさが年々増してきています。コロナ禍で増えた居場所関連の助成金や補助金もめっきり減少し、社会全体の厳しさも増す中で寄付等も減少傾向にあり、子どもたちの居場所を安定的に運営することの厳しさを痛感した1年でもありました。

子どもたちのニーズの高さに対して、本ユースセンターのように食べたり、休んだり、思春期世代にとって家庭が本来果たすべき最も基本的な権利を保障できる場を作っていくための予算や制度が少なすぎる現状を踏まえ、本取り組みを全国の行政機関や子どもの支援に携わる従事者に伝えるべく、「伝える変える事業」と連携し、以下の2つの取り組みも行いました。

① 2024年6月 こども若者政策の最新事情と官民の好事例に学ぶ思春期世代の居場所づくり（144名申し込み）

第1部 こども家庭庁より「こどもの居場所づくりに関する指針」の解説

講師：こども家庭庁成育局 成育環境課 課長 山口 正行 氏

第2部 思春期世代の居場所づくり、支援の現状

① 港区子ども家庭支援部 子ども若者支援課 課長：矢ノ目 真展 氏

東京都港区における中高生を対象とした目的型・交流型の居場所に関する取り組み事例

② 認定NPO法人D×P（ディーピー） 理事長：今井 紀明 氏

大阪ミナミの繁華街（通称グリ下）に集まる若者が安心して過ごせる居場所「ユースセンター」活動実績

③ 認定NPO法人3keys（スリーキーズ）代表理事：森山 誉恵

東京・新宿エリアにある「非交流型・非プログラム型」のユースセンターの運営実績

セミナー参加者の声（一部）

“子ども自身の声を聞くことの重要性、親を介さずに支援を届ける難しさなど、実践から得られた皆さんの感想や知見が大変参考になりました。どうもありがとうございました。”

“公共や民間の取り組みについて、把握していなかったことを知ることが出来、また、取り組んでいる方々の熱い思いを知ることが出来、とても貴重な経験となりました。本当にありがとうございました。”

② 内覧会実施（一部研修付き）

年間を通して、行政機関向けに内覧会を実施し80名の方々に参加していただきました。本ユースセンターは子どもたち

の安全安心を守るために、住所については原則利用者のみへの周知にとどめていることから、内覧会については一般公開せず、行政機関等への周知にとどめております。また、一部内覧会では研修もセットで行うことで、より本センターの意義や、成り立ちを感じてもらうこともできました。

内覧会参加者の声（一部）

“私たちが子どもと接する時は、何かを確認したいだったりどうしても多いので、質問をして答えてもらうという事が多くなります…。のんびり過ごしてもらおうという事、とても大切だと思います。食べる事には困っていないけど、居場所のひとつとして子ども食堂に案内したりもしますが、ごはんを食べる目的で行くだけではなくて自分の時間を取り戻すようなことのできる空間の大切さを改めて感じました。”

“日常に疲れた子が訪れる空間として、とても落ち着く良い場所だなと思いました。同じ空間にいても他人を気にならない工夫がされていて、最初のイメージでは誰かと関わらないといけないのかなとか、1人であることに緊張しちゃうなとか思っていたのだけど、見学をして、誰かいるけれど自分の時間を作ることができる空間なんだなと思った。目線であったりとか、家具の配置などを工夫することで、個の空間を作ることができるんだなと思った。家庭で当たり前感じられる場所を提供することの重要性、安心して人とつながってても良い人だと思える場所が必要でその関わりをするためにはスタッフの方をいろいろと対応を考えているのだなと研修を通して学んだ。”

“子どもの自由と安心（＝当たり前のこと）を最優先することで、子どものその後の人生が大きく変わると改めて感じました。とかく、良かれと思って子どもに接することが多くなりがちですが、空気のようにいつもそばにいて必要なときに手が届く距離感が大切だと思います。”

“とても配慮の行き届いた空間だと思います。子どもたちがどんな思いを抱え、ここを訪れるのか、それを静かに包み込むように見守る安全な空間。家具や壁もシンプルで色彩をおさえているのも、“無”に近い感じで、おちつくのかも。

“複数のスタッフで検証し、1人で抱え込まず、平常心で接することを心掛けている点が素晴らしいと思いました。居場所は、のんびり寛ぐことができるように配慮されていて、辛い思いをしている子供たちの心に少しずつ温もりが戻るような工夫があると思いました。本や小物のセレクトも素敵です。”

“貴重な機会をありがとうございました。自治体の行う支援だけでは手のとどかないところがあることを日々痛感しています。とても素晴らしいご活動だと思います。参加することができ、良かったです。ありがとうございました。”

“思春期と子ども支援の違いや、トレーニングをされていることの重要性（共通認識）、理念をもつなど大変勉強になりました。このような居場所を今の拠点や資源が不足している地域はたくさんありますので、自分たちも考えて作っていきたいな、とも夢が広がりました。”

子どもたちに必要な情報などを伝えるコンテンツ等を作成する事業（通称：子ども事業② コンテンツ作り）

1. 児童福祉施設向け「教室型プログラム」

2024年度は児童養護施設2つ、母子生活支援施設2つ、学習支援拠点1つで支援を実施しました。これまでは訪問可能な東京近辺でしか実施が難しかったのですが、上記のうち2つの施設ではオンラインでの支援を中心としたことで、今後支援できる現場の可能性が大きく広がった年でした。

また、団体設立当初から様々な児童養護施設等と連携して学習支援をしてきた経験から貯まった知見をもとに、3月6日、主に児童養護施設や児童相談所職員の方を対象とした「学習習慣・応援セミナー」をオンラインで開催。全国から40施設、計51名の方にご参加いただきました。子どもたちが学習につまずくいくつかの理由を解説した後、それらを解消するために3keysがおこなっている学習支援の内容をお伝えし、事前にいただいたいくつかの質問にお答えしました。本セミナーでは、24年度から開始したオンラインでの学習支援についても説明させていただき、計7つの施設から体験会の申し込みもあり、25年度以降の支援の広がりを実感することができました。

セミナー参加者の声（一部）

“当施設でも学習に対し、苦手意識を抱えている子どもがおり、職員が付きっ切りになる場面も少なくありません。講義を通し、足し算でも解答するまでにいくつかに細分化することができると説明があり、私の認識していたスモールステップがいかに職員よがりであったのかと反省しました……”

“学習支援でのつまずきの悩みは、皆、共通するものがあると感じました。特に、知的や発達の課題をもつ子どもへの支援の仕方が難しく、職員があるゆるパターンを考え対応していますが、職員の思いが子ども達には、なかなか伝わりま

せん。能力があっても、「やりたくない」の一言で、学習から逃げてしまいます。……焦らず、子ども達と一緒に目標を考え、学習に取り組んでいきたいと思います。”

子どもたちの現状を社会に伝え、子どもたちの環境を変える事業（通称：「伝える・変える」事業）

1. Child Issue Seminar（以下、CIS）

2024 年度は、第 26・27 回の 2 回の CIS を実施しました。会場での開催だけでなく、オンラインでのアーカイブ配信も行ったことで、全国の多くの方々にご参加いただくことができました。

CIS は、子どもに普段関わっていない一般の方が気軽に参加でき、子どもたちの現状を正しく知り、理解することをコンセプトに運営しておりますが、第 23～27 回の 5 回については思春期世代をテーマにさせていただき、特に自治体職員や、子ども支援に携わる方への参加促進を行いました。その結果、全国各地から、自治体職員や、子ども支援に携わる教育・福祉の従事者の参加が非常に多くみられ、子ども支援や制度作りに関わるみなさまに、思春期世代の支援の難しさとそのニーズについて啓発することができました。

○第 26 回目 2024 年 11 月 8 日

官民学で考える 10 代の居場所づくり【キャラを使い分ける SNS 時代の 10 代の居場所のあり方】

申込者：230 名（会場・アーカイブ参加あわせて）

第 1 部 基調講演及び事例報告

基調講演【キャラを使い分ける SNS 時代の 10 代の居場所のあり方】

早稲田大学文学学術院文化構想学部 教授 阿比留 久美 氏

事例報告① 東京都港区における高校生世代の居場所に関する検討委員会の報告

港区子ども家庭支援部 子ども若者支援課 課長 矢ノ目 真展 氏

事例報告② 3keys 視点でみたフィンランド子ども若者政策

認定 NPO 法人 3keys 代表理事 森山 誉恵

第 2 部 クロストーク

ファシリテーター 文教大学人間科学部 准教授 青山 鉄兵 氏

早稲田大学文学学術院文化構想学部 教授 阿比留 久美 氏

港区子ども家庭支援部 子ども若者支援課 課長 矢ノ目 真展 氏

認定 NPO 法人 3keys 代表理事 森山 誉恵

参加者の声（一部）

“現在の 10 代のルール感、置かれている立場が改めて理解できました。子どもと大人の立ち位置の違い、そしてその中で子どもの声を聞くことというのを改めて考えさせられました。失敗をしても大丈夫と思える場所が、思春期にとってのセーフティーネットになることを意識しました。”（NPO や社会福祉法人等の非営利団体職員、40 代）

“世田谷区のフリースクールでボランティアをしております。オルタナティブ学習のような自由な学びの場が増えていることに喜びを感じると同時に、家庭環境に問題を抱えるこどもや貧困家庭の行き場に不安感が芽生えます。教育や福祉に今まで携わって来なかったため、今回沢山の学びがありました。今後の開催も参加させていただきたいと思います。”（NPO や社会福祉法人等の非営利団体職員、20 代）

“居場所に囚われすぎず、社会全体をよくする活動をしていけば、くくって居場所をつくる必要もなくなるというのが理想でもあるんだなと思いました。また、支援感を出さずに支援できる体制をつくるというセーフティーネットづくりの難しさも感じました。貴重な話をありがとうございました！”（自治体職員、30 代）

“登壇者の方々の年齢層自体が若く、これからの時代を居心地のよい方向へ流れを動かしていく先駆者として、希望を感じることでした。御三方ともそれぞれに語られる率直な意見を、ワクワクする想いで拝聴しておりました。昨今、よく耳にすることになった「子どもの声を聞く」について、講師の方々の対談を伺うことができ、私自身、肝に銘じ、これからの関りにおいても自戒しつつ寄り添っていききたいと望んでおります。ワクワクとした希望を描けた貴重な時間となりました。ありがとうございました。”（地方自治体の非常勤職員（スクールソーシャルワーカー）、60 代～）

○第 27 回目 2025 年 2 月 19 日

「問題を起こす力」のある思春期世代の心を読み解く

申込者数：343 名（会場・アーカイブ参加あわせて）

基調講演：北海道大学大学院教育学研究院 准教授 加藤 弘通 氏

特別企画：メタ社より「ティーンアカウント」及び「「Take It Down」サービスのご紹介

“思春期世代への対応は難しいイメージを持っていたので、加藤先生のお話しでそれが少し和らいだ気がします。思春期の子を持つ親と話す機会などに役立てられるようにしたいと思います。”（NPO や社会福祉法人等の非営利団体職員、40 代）

“とてもわかりやすく、思春期の子どもたちの問題行動への視点を新たに学べたと思う。感覚的に思っていたことが、加藤先生のお話を聴いて、自分でも言語化できるようになり、学校現場で先生たちへの理解につなげていきたいと思いました。”（自治体職員（教育委員会含む）、50 代）

“どのように理解して対応すればよいか、長年悩みでした。今までなんとなく、肯定的側面を見ないと、という視点が頼りでしたが、発達からみた時期、思考が深まる時期、発達しているからこそ、との視点をあらたに持って理解、対応してゆくことができそうです。”（医療関係者、50 代）

“とても有意義な研修になった。発達の影響の多面性、自尊感情（自己肯定感）の多面性よくわかりました。子どもを客観視する前に、大人が自分たちを客観視するべきとも思います。思春期への対策の方向感も共感しました。”（NPO や社会福祉法人等の非営利団体職員、50 代）

2. メディア掲載・講演・執筆

2024 年度は以下のような発信を行いました。

●メディア掲載回数：計 6 回

- ・新聞：1 回 読売新聞・朝刊くらし面「広まる中高生の居場所作り」
- ・雑誌・書籍：2 回 書籍『一人ひとり、みんなちがう！ 男子のからだところ相談室』（汐文社）、書籍『教室のなかの多様性図鑑』（Gakken）
- ・Web 記事：1 回 サントリー “君は未知数” 基金 2024 採択団体訪問記（サントリー）
- ・機関紙・レポート：2 回 CBGM こども財団 NEWS（公益財団法人 CBGM こども財団）、SEEDCap15 周年記念 寄付インパクトレポート（コモンズ投信株式会社）

●講演回数：計 5 回

講演先一覧：東京ロータリークラブ、特定非営利活動法人協力アカデミー、株式会社コスモスイニシア、国際ソロプチミスト東京、特定非営利活動法人 School Voice Project

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

(事業費の総費用【145,669千円】)

定款に 記載 された 事業名	事業内容	日時	場所	従事者 人数	受益 対象者 範囲	受益 対象者 人数	事業費 (千円)
子ども たちへ セーフ ティ ネット 等を提 供する 事業 (通 称:子 ども 事業① セーフ ティ ネット 作り)	1. 10 代向け支援サービス検索・相談サイト「Mex (ミークス)」 頼れる大人が周りにいない子どもたちは、トラブルに巻き込まれたり、深刻な状態で発見されたりすることも少なくありません。3keys では、虐待・いじめ・自殺・こころの問題等、深刻な悩みを抱えながらも誰にも相談できずにインターネットに駆け込んだ子どもたちが、安心して頼れる大人や支援団体とつながることができるよう、大人でも分かりづらい、行政や NPO 等の支援機関の情報を子どもひとりでも違いを比較し、相談できるようなサイト作りを目指しています。 また、様々な専門家の方の監修を経ながら、子どもたちがよくひとりで悩む内容の解決やヒントになるようなよみものや動画もサイト内で配信しています。	通年 (24 時間)	全国・原則国内	6名	主に 10 代以下	年に 1 回以上利用した人数約 540674 名	105,494
	2. ユースセンター「3 (さん)」 子どもたちにとって、生活の中で一つは必ず「安らぐ場所」が必要です。多くの場合は、それぞれの家がその役割を果たすとされているでしょう。しかし、日本の住宅事情の元で、子ども一人ひとりのパーソナルスペースを用意できているのは、ゆとりのある一部の家庭のみ。家族といえども近すぎる距離で思春期を過ごす中で、家族と距離を取ることができるのは、目の前にあるスマホの中の SNS やネット、商業的な場しかないのが現状です。 さらに深刻な場合は、家庭内で暴力を受けていたり、罵声や面前 DV の被害が日常的にあったり、兄弟姉妹と明らかな差別を受けていたりといった、虐待やマルトリートメント (不適切養育) の環境にさらされている子どもたちは、日常的に安らぐ場所が奪われてしまっています。 「施設のような場ではなく、どちらかというと家にいるような感覚で過ごせる場所」「くつろいだり、目的を持たなくても、居心地が悪くない場所」「評価されたり、何かを強要されたりせず、自分が好きなことをして過ごせる場所」「子どもたちにとって安全で、静的な (非交流型) サードプレイスとなること」それがユースセンター「3 (さん)」が目指す場所です。	通年 運営日時 (2025 年 3 月末時点) 月・火・木・金 10:00~21:30 土 13:00~21:30 ※上記曜日は祝日も運営 ※定休日: 水曜日、日曜日、12/31、1/1、	東京都新宿区 (利用者の対象エリア制限なし)	16 名	小学校 4 年生~19 歳になる年度末まで (高校等の在学有無は問いません)	延べ利用回数 936 回 食事提供数 776 回	
子ども たちに 必要な 情報な どを伝 えるコ ンテン ツ等 を作成 する事 業 (通	1. 子ども向け啓発動画「ミーのなやみ」 私たちは、誰かに相談する気力すら失った子どもたちに、虐待やいじめ、DV 等の正しい知識をつけてもらい、自らを必要以上に責めないこと、自分は悪くないこと、誰かに助けを求めてよいことを伝えています。子ども向け啓発動画「ミーのなやみ」では、子どもたち自身が動画のキャラクターであるミーが抱える悩みを客観的な立場から見ること、自分が置かれている環境についても改めて考えることができるように構成しました。また、悩みに合わせて相談先等も紹介しています。 YouTube は 10 代が最も利用している Web ツールでもあります。正しい知識を身につけることで、助けを求めることすら恐れている子どもたちに、必要な一歩を踏み出してほしいという思いで作っています。	通年	全国・原則国内	5 名	主に 10 代の子どもたち	24,386 回再生	15,463

称：子ども事業②コンテンツ作り)	2. YouTube オンライン相談会 コロナ禍で、虐待や自殺等につながる子どもからの SOS が増えたことと、平時以上に支援機関や大人の余裕がない状況を踏まえ、緊急企画として YouTube オンライン相談会を実施しました。臨床心理士の信田さよ子氏と、児童精神科医の井上祐紀先生に子どもたちから寄せられた相談に答えていただきました。 当日のライブでの相談だけでなく、その後に見逃し動画の配信も行っております。子ども向けではありますが、子どもたちとの関わり方のヒントもたくさんありますので、ぜひ大人の方もご覧ください。					47,742回再生	
	3. 10 代向けコラム 10 代向け支援サービス検索・相談サイト「Mex(ミークス)」には、相談先だけでなく、子どもたちからよく寄せられる様々な悩みの解決のヒントになるようなコラムを掲載しています。各分野の専門家の監修を経て、正しい情報を心がけているだけでなく、これまで長年子どもたちを支援してきた立場から、子ども一人で読んでも分かりやすい内容になるよう工夫しています。					年に 1 回以上閲覧した人 54 万名	
	4. 児童福祉施設向け「教室型プログラム」 虐待等の家庭環境で育った子どもたちの多くは、読み書き計算等の基本的な学習基盤が整っていないことが多く、小学校低学年から学習遅れが顕著になるケースが見受けられます。3keys では、主に児童養護施設と連携し、小学生の補習教室の運営や運営支援・教材支援等を行い、早期から子どもたちの学習をサポートできる環境作りをしています。	通年	全国・原則国内		児童養護施設および母子生活支援施設等の児童福祉施設を利用している主に小学生（一部中高生）	66 名 ・ 150 教科（1 名あたり平均 2.3 教科） ・ 4 施設	
子どもたちの現状を社会に伝え、子どもたちの環境を変える事業（通称：「伝える・変える」事業）	1. 「白書-日本の子どもたちの今」 耳を疑うような内容の児童虐待、いじめによる自殺、教師や保育士による体罰や性暴力、子どもの貧困や格差等、いつから日本が子どもたちにとって不幸せな国になったのか、信じられないようなニュースを目にする機会が増えました。しかし、それらはどれも誇張ではなく、本当に日本で起きている事柄です。社会が複雑化している一方で、子どもを見守り育てる大人は親・先生に限定され、子どもたちが必要とする様々な形の愛情を受けづらい時代になりました。 事件がある度に、私たちの元にはたくさんのメディアや、個人の方から問い合わせが寄せられます。しかし、事件が去るとまた日常が戻り、子どもたちに関心を寄せる存在が減っていきます。 私たちは、何らかの形で子どもたちに関心を持ち続けてほしいと願っています。そのために、私たちのホームページに訪れた時に、正しく子どもたちの現状を知ってもらい、大人たちが日々できることを少しでもたくさん実践してほしいと思い、複雑化している子どもたちの現状を正しく伝えるための「子ども白書」をサイト内に作りました。子どもたちを見守る大人の一人として、ぜひ子どもたちの今を正しく知っていただけたら嬉しいです。	通年	全国・国内外制限なし	6 名	制限なし（主に大人）	閲覧者数 129,479 名（年に 1 回以上訪れた人のユニーク数）	24,712
	2. 研修・「Child Issue Seminar(通称 CIS)」の開催 3keys では、子どもたちの支援だけでなく、日本の子どもたちを取り巻く環境の周知・改善を目的としたセミナーを大人向けに主催し、理解者や支援者を増やすための啓発活動を行っています。2013 年度から開始した連続セミナー「Child Issue Seminar」では、社会的に話題になっていることや、ぜひ知ってほしいテーマを取り上げています。 子どもの支援に普段関わっていない主に一般の方向けの会と、子どもに既に関わっている支援機関・行政関係者を主たる参加者とした会があります。	こども若者政策の最新事情と官民の好事例に学ぶ思春期世代の居場所づくり:2024 年 6 月 27 日 CIS: 2024 年 11 月 8 日、2025 年 2 月 19 日 「学習習慣・応援セミナー」2025 年 3 月 6	東京都（動画配信は全国・国内外制限なし）			CIS 573 名（会場参加・動画視聴を合わせて） 研修・報告会・内覧会等 224 名	

		日 ユースセンター 内覧会（一部 研修付き）： 2024 年 5 月 22 日					
	3. 執筆・講演・メディアでの啓発 3keys では、子どもたちの現状をより多くの方々に伝え、一人ひとりができることを実践するために、講演や執筆等を積極的に行っております。イベントや勉強会等の講師としてお呼びいただくことで、3keys だけではアプローチできない方々に子どもたちの現状を伝えることができます。	通年	全 国・ 国内外 制限なし			255 名 （講演参加者数のみ）	

（２）その他の事業

（事業費の総費用【 】千円）

定款に記載 された 事業名	事業内容	日時	場所	従事者 人数	事業費 （千円）

2024(令和6)年度 貸借対照表

2025(令和7)年3月31日現在

特定非営利活動法人3keys

(単位：円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	30,120,317		
商品	85,395		
未収金	7,420,436		
貯蔵品	158,082		
前払費用	4,873,478		
仮払金	3,000		
流 動 資 産 合 計		42,660,708	
2 固定資産			
(1)有形固定資産			
什器・備品	421,188		
		421,188	
(2)無形固定資産			
ソフトウェア	12,000,464		
		12,000,464	
(3)投資その他の資産			
出資金	46,088		
保証金	26,265,600		
		26,311,688	
固 定 資 産 合 計		38,733,340	
資 産 合 計			81,394,048
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	9,474,607		
前受収益	604,000		
預り金	359,519		
前受助成金	10,251,065		
未払消費税等	822,900		
未払法人税等	70,000		
流 動 負 債 合 計		21,582,091	
負 債 合 計			21,582,091
III 正味財産の部			
1 指定正味財産			
前期繰越指定正味財産	0		
当期指定正味財産増減額	0		
指定正味財産合計		0	
2 一般正味財産			
前期繰越一般正味財産	116,374,766		
当期一般正味財産増減額	△ 56,562,809		
一般正味財産合計		59,811,957	
正味財産合計			59,811,957
負債及び正味財産合計			81,394,048

2024(令和6)年度 財産目録

2025(令和7)年 3 月 31 日現在

特定非営利活動法人 3keys

(単位：円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金			
手元現金	121,224		
三菱UFJ銀行普通預金①	561,044		
三菱UFJ銀行普通預金②	14,726,173		
三菱UFJ銀行普通預金③	3,580,517		
三菱UFJ銀行普通預金④	522,244		
郵便振替 当座預金	7,808,780		
郵便貯金 普通預金	2,800,335		
		30,120,317	
商品			
ピアス・イヤリング 他	85,395		
		85,395	
未収金			
子どもの権利保障推進事業収入 他	7,420,436		
		7,420,436	
貯蔵品			
切手・図書カード 他	158,082		
		158,082	
前払費用			
賃貸物件保証委託料・賃貸料 他	4,873,478		
		4,873,478	
仮払金			
仮払金	3,000		
		3,000	
流 動 資 産 合 計			42,660,708
2 固定資産			
(1)有形固定資産			
什器・備品	421,188		
		421,188	
(2)無形固定資産			
HPリニューアル、動画「ミーのなやみ」 他	12,000,464		
		12,000,464	
(3)投資その他の資産			
出資金 生活クラブ連合会	46,088		
保証金 新宿事務所賃貸	26,265,600		
		26,311,688	
固 定 資 産 合 計			38,733,340
資 産 合 計			81,394,048

科 目		金 額		
Ⅱ 負債の部				
1 流動負債				
未払金				
スタッフ給与・社会保険料 他		9,474,607	9,474,607	
前受収益				
学習支援事業 年会費 他		604,000	604,000	
預り金				
源泉所得税 他		359,519	359,519	
前受助成金				
翌期以降使用助成金		10,251,065	10,251,065	
未払消費税等				
未払消費税等		822,900	822,900	
未払法人税等				
未払法人税等		70,000	70,000	
流 動 負 債 合 計				21,582,091
負 債 合 計				21,582,091
正 味 財 産				59,811,957

2024(令和6)年度 活動計算書

2024(令和6)年4月1日から2025(令和7)年3月31日まで

特定非営利活動法人 3keys

(単位：円)

科 目	金 額		
(一般正味財産増減の部)			
I 経常収益			
1 受取会費			
正会員受取会費	130,000	130,000	
2 受取寄附金			
受取寄附金	49,346,530	49,346,530	
3 受取助成金等			
受取助成金	3,157,497		
受取助成金振替額	34,169,201	37,326,698	
4 事業収益			
子どもたちへセーフティネット等を 提供する事業	27,721,410		
子どもたちに必要な情報などを伝 えるコンテンツ等を作成する事業	792,000		
子どもたちの現状を社会に伝え、 子どもたちの環境を変える事業	811,457	29,324,867	
5 その他収益			
受取利息	382		
受取配当金	68		
雑収益	711	1,161	
経常収益計			116,129,256
II 経常費用			
1 事業費			
(1) 人件費			
役員報酬	2,721,600		
給料手当	42,536,612		
法定福利費	6,252,227		
福利厚生費	214,696		
人件費計	51,725,135		
(2) その他経費			
仕入高	11,162		
広告費	1,477,160		
郵送費	703,327		
印刷製本費	365,452		
採用教育費	3,582,490		
調査研究費	216,456		
水道光熱費	2,211,984		
消耗品費	1,450,338		
食材費	1,859,252		
支払保険料	223,390		
租税公課	1,021,019		
渉外費	3,780		
旅費交通費	2,831,755		
通信費	449,953		
支払手数料	2,694,912		
会議費	9,126		
謝金	322,140		
システム維持費	2,088,250		
委託費	28,277,280		
家賃	39,559,855		
賃借料	374,303		
減価償却費	4,184,799		
雑費	26,336		
その他経費計	93,944,519		
事業費計		145,669,654	
2 管理費			
(1) 人件費			
役員報酬	878,400		
給料手当	13,728,747		
法定福利費	2,017,915		
福利厚生費	56,218		
人件費計	16,681,280		

科 目	金 額		
(2) その他経費			
広告費	22,297		
郵送費	72,819		
印刷製本費	6,037		
採用教育費	391,810		
調査研究費	244		
水道光熱費	118,168		
消耗品費	224,573		
食材費	0		
支払保険料	44,473		
租税公課	327,394		
渉外費	1,220		
旅費交通費	756,287		
通信費	144,614		
支払手数料	110,607		
会議費	2,051		
謝金	16,104		
システム維持費	155,681		
委託費	2,794,742		
家賃	3,778,385		
賃借料	11,555		
減価償却費	1,350,650		
雑費	0		
その他経費計	10,329,711		
管理費計		27,010,991	
経常費用計			172,680,645
当期経常増減額			△ 56,551,389
Ⅲ 経常外収益			
1 為替差益		25,560	
2 前期損益修正益		33,020	
経常外収益計			58,580
Ⅳ 経常外費用			
経常外費用計			0
税引前当期一般正味財産増減額			△ 56,492,809
法人税、住民税及び事業税			70,000
当期一般正味財産増減額			△ 56,562,809
前期繰越一般正味財産額			116,374,766
次期繰越一般正味財産額			59,811,957
(指定正味財産増減の部)			
Ⅰ 受取寄附金	0	0	
Ⅱ 受取助成金	34,169,201	34,169,201	
Ⅲ 一般正味財産への振替額	△ 34,169,201	△ 34,169,201	
当期指定正味財産増減額			0
前期繰越指定正味財産額			0
次期繰越指定正味財産額			0
次期繰越正味財産額			59,811,957